



2026年4月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年12月9日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 村上 大吉郎
問合せ先責任者（役職名） 常務取締役CFO （氏名） 功野 顯也 （TEL） 082-850-1200
半期報告書提出予定日 2025年12月12日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年4月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年5月1日～2025年10月31日）

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
2026年4月期中間期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年4月期中間期	3,317	△2.5	31	97.8	51	166.6	23	943.9
	3,402	—	15	—	19	—	2	—

(注) 包括利益 2026年4月期中間期 32百万円(—%) 2025年4月期中間期 1百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
2026年4月期中間期	円 銭 1.50	円 銭 —
2025年4月期中間期	0.14	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
2026年4月期中間期	百万円		百万円		%	
2025年4月期	6,254		5,254		84.0	
	6,349		5,386		84.8	

(参考) 自己資本 2026年4月期中間期 5,254百万円 2025年4月期 5,386百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年4月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 7.00	円 銭 7.00
2026年4月期	—	0.00	—	—	—
2026年4月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年4月期の連結業績予想（2025年5月1日～2026年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社（社名）— 、除外 一社（社名）—

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年4月期中間期	17,464,000株	2025年4月期	17,464,000株
② 期末自己株式数	2026年4月期中間期	1,918,346株	2025年4月期	1,759,346株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年4月期中間期	15,639,358株	2025年4月期中間期	16,225,753株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や、旺盛なインバウンド需要、円安を背景とした輸出型企業の好調な業績などにより、緩やかな回復基調で推移しております。一方で、物価高による消費マイナスの停滞や、米国の通商政策の動向など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工や通信出力サービスを主に提供するフューネラル事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するフォトブック事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指す空中ディスプレイ事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(フューネラル事業)

当事業におきましては、自社営業による新規顧客獲得を確実に推し進めたものの、全国的な葬儀施行件数減少の影響を受け、主力である画像処理収入は前年同期に比べ減少いたしました。それに伴い、額やペーパーなどのサプライ用品の売上も苦戦した一方、遺影写真出力用システムやサイネージ機器などハードウェアの売上は好調に推移いたしました。

葬儀市場にITテクノロジーを活用した「葬テック」としてリリースしております「tsunagoo」は新規契約件数は目標に達しなかったものの、「tsunagoo」利用による収入は着実に増加しております。最新AIを利用した新サービス「snapCINEMA」は導入件数を確実に伸ばしております。

利益面につきましては、画像処理収入の減少に伴う粗利の減少が響き、またクラウド利用料や各種ソフトウェアの利用料の増加などにより、セグメント利益は前年同期実績を下回りました。

以上の結果、売上高は1,565,136千円（前年同期比99.3%）、セグメント利益は245,277千円（前年同期比80.4%）となりました。

(フォトブック事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真からフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、主力であるウェディング市場は、挙式規模の縮小傾向や写真のデジタル化傾向により厳しい環境にあります。そのような中、契約件数の着実な増加に加え、大手顧客を中心に写真関連の周辺業務を担うBPO型サービスの提案を進め、レタッチソフトの導入やデータ納品サービスの浸透に努めてまいりました。また、10月にはBtoB向け製品の価格改定を実施いたしました。

一般消費者向け市場についても、依然として厳しい環境が継続している中、価格改定による受注量への影響を最低限に留めるとともに、新製品のリリース、推し活EXPOへの出展、ファンミーティングの実施など各種施策を進めてまいりました。また、写真集発注用ソフトウェア「MyBookEditor」の新バージョンの開発を進めております。一方バーチャルビジネス分野では、連結子会社である株式会社BETは、米国市場のマーケティングなどの取組を進めておりますが、ライバー獲得費用の増加や男性ライバー事務所の立ち上げ遅れの影響を受け、想定に比べ苦戦しております。

利益面につきましては、原材料価格高騰や人件費上昇の影響はありますものの、価格改定に加え、固定費の削減、生産効率向上への継続的な取組の成果もあり、セグメント利益は伸長いたしました。

以上の結果、売上高は1,707,573千円（前年同期比98.2%）、セグメント利益は231,572千円（前年同期比120.8%）となりました。

(空中ディスプレイ事業)

当事業におきましては、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指しております。独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれを開発、製造、販売しております。

経営体制の変更に伴い、営業体制の強化や営業方針の修正を行い、その立ち上げ準備を踏まえ積極的な活動を進めてまいりました。国内における営業面につきましては、XRチームと合流し、空中結像の体験価値を訴求し、コンテンツや筐体を含めたパッケージでの提供を進めるなか、展示会で提案いたしました、地域や企業のソリューションとして有効な「観光」「エンタメ」「教育」分野における最先端のコミュニケーション体験の可能性について自治体などに向けフォローアップを進めました。海外では、台湾市場でのマーケティングを進めるとともに、戦略パートナー連携に向けて交渉を実施してまいりました。エンターテイメント分野においては、SNSの情報発信を積極的に行うとともに、BtoC向けパッケージ製品「浮空ライブステージHome」の試作販売を開始し、BtoB向けの「浮空ライブステージ匠・MAX」とともに、その拡販に向けた活動を加速しております。また、自社主催イベント「第2回おりづるVTuberフェス」を規模を拡大して実施し、あわせて地域創生イベントとして連携自治体への営業を進めてまいりました。

製造・開発面につきましては、自社技術開発センターにおいて大型サイズのプレートの試作を進めておりますが、進展の長期化を課題認識しております。また、能動系技術など新技術の特許申請に加え、試作品を製作し、戦略パートナー獲得に向けた準備を進めてまいりました。

損益面につきましては、XRチーム合流による人件費の増加や能動系を中心とした特許関連費用の増加があったものの、売上案件の採算性が改善し、海外展示会の出展抑制や、前期の減損損失計上に伴う減価償却費の減少により、セグメント損失は前年同期より若干縮小いたしました。

以上の結果、売上高は49,282千円（前年同期比55.3%）、セグメント損失は145,294千円（前年同期は151,865千円の損失）となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は3,317,357千円（前年同期比97.5%）となり、利益面につきましては、フォトブック事業のセグメント利益が回復したことを主要因として、経常利益は51,421千円（前年同期比266.6%）、親会社株主に帰属する中間純利益は23,482千円（前年同期比1,043.9%）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ94,529千円減少し、6,254,697千円となりました。これは主に、印刷設備の購入等により有形固定資産が165,174千円増加した一方で、自己株式の取得等により現金及び預金が370,571千円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ37,666千円増加し、1,000,538千円となりました。これは主に、未払金が101,005千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ132,195千円減少し、5,254,158千円となりました。これは主に、自己株式の取得98,973千円及び剰余金の配当109,932千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ370,571千円減少し、1,311,301千円となりました。なお、当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動の結果獲得した資金は、95,685千円となりました。これは主に、売上債権の増加32,200千円、未払消費税等の減少31,907千円を計上した一方で、税金等調整前中間純利益50,019千円、減価償却費139,881千円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は、256,231千円となりました。これは主に、生産設備購入など有形固定資産の取得による支出191,542千円、敷金保証金の差入による支出71,187千円を計上したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動の結果使用した資金は、210,025千円となりました。これは主に、配当金の支払額110,037千円、自己株式の取得による支出99,269千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年6月10日に発表いたしました2026年4月期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年4月30日)	当中間連結会計期間 (2025年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,686,873	1,316,301
受取手形及び売掛金	824,760	856,961
商品及び製品	379,964	380,864
仕掛品	32,350	35,134
原材料及び貯蔵品	96,893	96,484
その他	62,889	68,478
貸倒引当金	△10,166	△9,275
流動資産合計	3,073,565	2,744,950
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	755,156	738,349
機械装置及び運搬具（純額）	398,823	359,696
土地	844,060	844,060
その他（純額）	157,991	379,100
有形固定資産合計	2,156,032	2,321,207
無形固定資産		
のれん	260,325	241,041
その他	191,325	191,049
無形固定資産合計	451,650	432,091
投資その他の資産		
投資有価証券	331,602	344,888
繰延税金資産	226,487	225,546
その他	109,888	186,012
投資その他の資産合計	667,978	756,448
固定資産合計	3,275,661	3,509,747
資産合計	6,349,226	6,254,697

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年4月30日)	当中間連結会計期間 (2025年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	172,395	158,405
未払金	293,956	394,961
未払法人税等	62,602	43,800
前受金	16,111	11,568
賞与引当金	181,640	189,640
その他	230,625	198,907
流動負債合計	957,331	997,283
固定負債		
退職給付に係る負債	4,343	2,775
その他	1,197	479
固定負債合計	5,541	3,255
負債合計	962,872	1,000,538
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	624,759	609,018
利益剰余金	5,247,868	5,161,418
自己株式	△1,012,228	△1,051,565
株主資本合計	5,350,699	5,209,171
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,654	44,987
その他の包括利益累計額合計	35,654	44,987
純資産合計	5,386,354	5,254,158
負債純資産合計	6,349,226	6,254,697

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年10月31日)
売上高	3,402,169	3,317,357
売上原価	1,958,453	1,879,651
売上総利益	1,443,715	1,437,705
販売費及び一般管理費	1,427,837	1,406,297
営業利益	15,877	31,407
営業外収益		
受取利息	1,511	2,311
受取配当金	950	1,225
為替差益	436	3,528
保険金収入	—	11,082
その他	1,319	2,411
営業外収益合計	4,217	20,558
営業外費用		
自己株式取得費用	540	296
投資事業組合運用損	249	247
その他	13	—
営業外費用合計	803	544
経常利益	19,291	51,421
特別損失		
固定資産除却損	4	1,402
特別損失合計	4	1,402
税金等調整前中間純利益	19,286	50,019
法人税、住民税及び事業税	17,037	26,537
法人税等合計	17,037	26,537
中間純利益	2,249	23,482
親会社株主に帰属する中間純利益	2,249	23,482

中間連結包括利益計算書

	(単位：千円)	
	前中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年10月31日)
中間純利益	2,249	23,482
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△983	9,332
その他の包括利益合計	△983	9,332
中間包括利益	1,266	32,815
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,266	32,815

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	19,286	50,019
減価償却費	180,627	139,881
のれん償却額	19,283	19,283
貸倒引当金の増減額（△は減少）	1,066	△891
賞与引当金の増減額（△は減少）	2,620	8,000
受取利息及び受取配当金	△2,461	△3,536
保険金収入	—	△11,082
投資事業組合運用損益（△は益）	249	247
固定資産除却損	4	1,402
売上債権の増減額（△は増加）	32,113	△32,200
棚卸資産の増減額（△は増加）	34,398	△3,275
仕入債務の増減額（△は減少）	△17,035	△13,990
未払金の増減額（△は減少）	△21,188	8,464
未払消費税等の増減額（△は減少）	△2,655	△31,907
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△361	△1,567
その他	63,130	3,313
小計	309,079	132,161
利息及び配当金の受取額	1,472	3,126
法人税等の支払額	△69,670	△39,601
営業活動によるキャッシュ・フロー	240,881	95,685
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△124,283	△191,542
無形固定資産の取得による支出	△60,521	△21,975
貸付金の回収による収入	106	—
定期預金の預入による支出	△5,000	△5,000
定期預金の払戻による収入	5,000	5,000
保険積立金の解約による収入	—	27,274
その他	△17,219	△69,988
投資活動によるキャッシュ・フロー	△201,918	△256,231
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△200,857	△99,269
配当金の支払額	△114,893	△110,037
その他	△718	△718
財務活動によるキャッシュ・フロー	△316,469	△210,025
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△277,506	△370,571
現金及び現金同等物の期首残高	1,660,015	1,681,873
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,382,508	1,311,301

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	フューネラル 事業	フォトブック 事業	空中ディス プレイ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,576,417	1,736,568	89,183	3,402,169	—	3,402,169
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,755	—	2,755	△2,755	—
計	1,576,417	1,739,324	89,183	3,404,925	△2,755	3,402,169
セグメント利益 又は損失 (△)	304,893	191,766	△151,865	344,793	△328,915	15,877

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△328,915千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用（報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費）であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間(自 2025年5月1日 至 2025年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	フューネラル 事業	フォトブック 事業	空中ディス プレイ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,565,136	1,702,938	49,282	3,317,357	—	3,317,357
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	4,635	—	4,635	△4,635	—
計	1,565,136	1,707,573	49,282	3,321,992	△4,635	3,317,357
セグメント利益 又は損失 (△)	245,277	231,572	△145,294	331,554	△300,147	31,407

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△300,147千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用（報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費）であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。